

平成25年度 大学院入学式 式辞

新入生の皆さん、筑波大学大学院へ入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんを心より歓迎し、お祝い申し上げます。また、ご両親をはじめとするご家族の皆様、関係者の方々にも心よりお祝いを申し上げます。

今年の10月1日に筑波大学は、開学40周年を迎えます。筑波大学は、1973年（昭和48年）に当時の東京教育大学をベースに「新構想大学」として開学しました。本学は我が国で最も斬新な総合大学であると同時に、1872年（明治5年）に我が国初の高等教育機関である「師範学校」として発足し、東京教育大学から筑波大学に変わるまでの101年という長い伝統と実績を誇る大学でもあります。変革と再生が求められている今日ですが、私たちは40年前に先駆的に大学に対する新しい考え方を取り入れて、多くの期待や夢をこめて、自然あふれる環境都市、つくばの地に移ってきました。本学はあらゆる面で「開かれた大学」となることを目指し、従来の観念に捉われない「柔軟な教育研究組織」と次代の求める「新しい大学の仕組み」を率先して実現することを建学の理念として、我が国における大学改革を先導してきました。

皆さんは今日から希望に胸を膨らませて大学院に進み、夢を実現するための新しい研究人生を切り拓こうとしています。大学院では各々の専門分野において、いよいよ研究の真髄である真理の探究に邁進されることと思います。そして将来の学術を支える研究者、あるいは高度専門職業人として活躍されることを心から期待しています。本学は、理想の大学を目指して、常に新しいことに挑戦し、新しい領域を開拓する精神を尊重しています。本学は、先端的・独創的な知を創出する高いレベルの研究を基盤とし、質の高い教育を通じて個性豊かなグローバル人材を育成することを使命としています。教職員はこの誇りと使命を皆さんと共有することにより、皆さんを心から応援したいと考えています。本学は、皆さんの知的好奇心を満たし、皆さんが自ら未来を切り拓くことを支援いたします。

本学は、つくばの地に創造的かつ個性的な大学文化を発展させる努力を続けています。本学には世界各国から、また全国各地から多様な学生が集ってきています。留学生数は国立大学の中ではトップクラスです。わが国の教育、スポーツやオリンピックの発展に貢献した嘉納治五郎先生は、本学の前身である東京高等師範学校の校長を23年にわたり務め、多くの留学生を受け入れ、本学はもとより我が国の国際化の基礎を作りました。そして今、本学はグローバル30の拠点校として、国際色豊かな大学、多様な価値観を尊重する大学として発展しています。本学は、他に類を見ない幅広い学問分野を持つ総合大学であり、専門分野を深化させながら、学際・融合的な教育研究を積極的に展開し、数々の顕著な研究成果を上げるとともに国際的研究・教育拠点としての高い評価を得ています。また研究大学院大学として、我が国の11のResearch Universitiesで構成されるRU11の一つとして、先端的な研究を推進することが求められています。ノーベル賞受賞者の朝永振一郎博士、江崎玲於奈博士、白川英樹博士の三氏は本学関係者です。一方、オリンピックやパラリンピックでは本学の多くの教員や学生・生徒が、金メダルを含めた数多くの実績を残しています。

開かれた大学として、学び、考え、想像して未来を拓く視点を、本学では分かりやすく**IMAGINE THE FUTURE**. というキャッチフレーズで表現しています。開学の理念にあるように、本学は「不断の改革に挑戦する大学」です。本学は希望ある未来を創造する大学であり続けるためにさらなる挑戦と冒険を重ねています。社会はグローバル化し、激動しています。従前に比較すると、見通しの利かない社会であり、用意されたわかりやすい解答もありません。夢を抱き、本学で学び暮らす皆さんには、是非とも新しい付加価値を生み出すような想像力を培っていただきたいと思います。IMAGINE THE FUTURE.です。ヒトと地球にとって豊か

な未来を想像、すなわち **imagine** しなければ、未来を創造すなわち **create** できません。次の時代がどうなるか、どうあるべきかを大胆に想像して、新時代を開拓できる力を蓄えてください。そして、常に夢に向かって自己改革を進めてください。

科学と技術の進歩は、社会に大きな発展をもたらしてきました。しかし、一方で数多くの問題をも発生させてきました。エネルギー・資源に関する問題、産業・経済の活性化の問題、食料、少子高齢化の問題を含む人口構成の問題、格差社会の問題などの種々の問題です。さらに、今回の大震災は、信頼していた科学技術や社会システム・人智の限界をあらわにし、改めて自然の脅威を見せつけました。これらの限界や脅威を克服しなければ、安定した成熟社会の実現は困難です。このような問題を解決するために、日本も世界もあらゆる分野で、新たな成長を生み出そうと必死の努力をしています。これらの問題と問題解決を考える時、さらに重要な点は、問題を地球規模で共有し、解決に向けた活路を地球と地球社会の一員としての自覚を持ちながら、見いだして行かなければならないということです。私たちが挑戦するのは地球規模課題ですから、地球に暮らす人たちの考え方、生活、文化を知り、既存の境界を越えて情報や想いを共有し、連携することが大切であることを認識して欲しいと考えています。三年目を迎える、世界のトップスターを育成する「博士課程教育リーディングプログラム」や大学の世界展開力強化事業などの教育推進プログラムも、そのような認識のもとに運営されています。

皆さんがこれから取り組む研究では、知りたいあるいは創りたいことが、試行錯誤を含めた地道な努力や思わぬひらめきによって、実現していきます。予想していなかった発見や成果を経験することは、まさに研究の至福の瞬間です。研究は、短期的な実益とは別である場合もしばしばありますが、真理を探究する最も大学らしい営みです。一方で、自分の専門領域のみならず、種々の領域にも関心を持ってみてください。幅広い教養や知識は、新しいことを発見する際の重要なひらめきの源泉ですし、社会人としての健全で柔軟な思考にも繋がっています。自立した研究者あるいは高度専門職業人として育った皆さんを待っているのは、言語や文化の異なる多様な人々が力を合わせたり、ぶつかり合ったりするグローバル社会です。先に述べたように、本学では開学当初から、国籍や言語の垣根を越えて学びあう学生と教員が知の共同体を共創してきました。この共同体は漢字で表す「筑波」という大学やひらがなで表す「つくば」という都市を越えて、ローマ字 **TSUKUBA** で表すことのほうがふさわしいグローバル・コミュニティです。さまざまなことばと文化が行き交い、国際性が日常化する本学と本学を中核とする研究学園都市では、皆さんさえ望めば、毎日が国際感覚を磨く武者修行の場なのです。加えて、本学は7ヶ所の海外事務所を有し、また55の国と地域及び国際連合大学と合計225件の交流協定を結んでおり、海外で武者修行する機会や経済支援も充実しています。皆さんがヒトと地球の未来に向けてリーダーシップをいかんなく発揮するために必要な専門力、幅広い学識、そして強靱な自立心を身に付けるためには、本学は力の限り支援いたします。

最後になりますが、本学の基本的な使命は、地球規模課題の解決に向けた知の創造であり、世界が直面する問題の解決に主体的に貢献できるグローバル人材の育成です。皆さんには大学院において実力を蓄えていただき、そのような人材として、**TSUKUBA** から世界へ、そして未来へ羽ばたいて行くことを心から期待して、私の式辞とします。

平成25年4月8日

筑波大学長 永田 恭介